

4番 畠山和英です。令和6年第2回岩泉町議会定例会にあたり、今後の町観光振興施策の一端について一般質問を行います。

1 早坂高原の受入環境整備について

(1) 早坂高原の再構築について

先ず、早坂高原の再構築について伺います。

(西の玄関口早坂高原の整備)

本年5月連休の一日、早坂高原に登ってきました。森林浴や花を楽しむ人のほかに、スポーツカーのドライバー仲間、自転車ツーリングサークル、みずがめ座流星群観測グループ等それぞれの人々が思い思いに峠を訪れていました。

早坂高原は、春の新緑、夏の花々、秋の紅葉へと季節ごとに景色が移り変わりつながっていきます。県内有数の巨木のシナノキや、森林空間を楽しめる遊歩道、草原牧野では短角牛が草を食し、広大な採草牧場での牧草ロール採取作業等農業面の活用も図られるなど、雄大な大草原風景を醸し出しています。

本町西の玄関口である観光拠点として、また、龍泉洞、

北部陸中海岸の中継地として、早坂高原の受入環境を整え、魅力を高め、情報を発信し誘客に取り組んでいかなければなりません。

早坂高原は、本町の観光交流拠点として、今後、どのように整備を図っていこうとしているのか伺います。

また、町では、森林、健康の町として町の特色を活かして、早坂高原を「森林セラピーロード」の認定を受け、誘客等観光ツアー企画にあたってきました。令和3年度に登録を取り消し、脱退したと伺いましたが、ポスト「森林セラピーロード」施策をどのように考えて、今後、取り組んでいくのか伺います。

(持続的な自然環境、景観の保全と活用)

次に、持続的な自然環境、景観の保全と活用についてであります。

早坂峠付近は、「早坂地区生活環境保全林」として、以前、樹木の植栽・整理伐、池、遊歩道、管理道路など大規模な整備を施し、以降、町では「地域の保健休養の場」として

維持管理に努めています。早坂高原周辺一帯は、森林空間、高山植物等山野草の見事な花の群落がこれからも見られるように林間の整理伐、草木の刈り払いなど、毎年度、計画的に継続して修景作業を施していかなければなりません。

今後、どのようにして自然環境、景観を保って、持続的な活用を図っていく考えか見解を伺います。

(カタクリ再生大作戦、森の日事業の再開)

次に、「カタクリ再生大作戦」「森の日事業」の再開についてであります。

旧国道 455 号早坂峠道路筋の“岩泉町と東京都昭島市との「友情の森」の林間一帯”に植生するカタクリ群落の花は、県内でも屈指の面積ともいわれるように見事です。これも、これまで長年、町民らサポーターの参加により林内の下刈り作業で環境がつけられたものです。

今後、カタクリ群落を維持し、広く町内外に周知を図り宣伝していくためにも、町民らの協力を得てカタクリ発生環境の整備を再開、継続すべきです。町長の見解を伺います。

また、森林の町として、豊かな自然を守り、豊かな海を育み、緑化意識を次の時代につないでいくため、森の日事業の植樹祭・育樹祭を実施してはいかがでしょうか、併せて、見解を伺います。

(早坂高原公衆トイレの改修整備)

次に、早坂高原公衆トイレの改修整備についてであります。

先に、早坂高原公衆トイレ改修整備が予算化されましたが、歳入確保が見込まれなかったことなどから流れています。龍泉洞方面へのツアーバスの休憩・中継場所などとして誘客するためにも、トイレの整備が望まれます。公衆トイレの整備に向けた今後の見通しを伺います。

(2) 多彩な“催し”の開催と宣伝、PR活動の充実強化

次に、多彩な“催し”の開催と宣伝、PR活動の充実強化について伺います。

(多彩な“催し”の開催)

コロナ禍の収束に伴い人々の動きも平時に戻りつつあり、これまでに増して誘客活動への積極果敢な取組が必要です。

観光客、交流人口の拡大を図っていくためには、早坂高原に限ったことではありませんが、受入環境を整え、情報発信に取り組むことが大切です。

現在、早坂高原の“催し”としては、NPOぱあとなあなどが花の観察会を年2回程度開催、モルック大会、ピラティス等のイベントが行われています。単発の実施ですので、例えば、5月カタクリ、6月アヤメとツツジ、7月ノハナショウブ、ヤナギラン等、群落の花のシーズンにイベント等を組み合わせた“まつり”の開催や、写真教室・撮影会とSNSへの投稿、短角牛の放牧と牧草ロール作業見学会等々の催しを実施してはいかがでしょうか。

今後の受入環境の拡充に向けて、NPOぱあとなあ、町観光協会等関係団体への働きかけを含めて、どう取り組んでいく考えか伺います。

(宣伝、PR活動の充実強化)

次に、宣伝、PR活動の充実強化についてであります。

早坂高原の風景、話題、出来事などをSNS、ぴーちゃんねっとなどでの投稿配信、報道機関等への情報提供や、国道

の早坂高原入口箇所の観光案内標識の設置、旅行会社へのツアー企画の提案、早坂高原内の案内マップ・観光体験パンフの作成・配布等々、早坂高原の宣伝、PR活動は、今後どう充実強化を図っていく考えか、情報発信の取組を伺います。

2 牛追の道トレイルの整備について

(早坂峠筋の旧街道跡整備)

先ず、早坂峠筋の旧街道跡整備についてであります。

早坂峠に「牛追の道」の石碑があります。この石碑には、城下町盛岡と沿岸北部岩泉・小本とを結ぶ物流・交易の道であった小本街道のルートが書かれています。中でも、この地、岩谷から末崎までの早坂峠は、追われる雄牛にとっても、追う牛方にとっても難所中の難所であったなど、当時の牛追いの状況説明と峠筋の旧街道図が設置されています。

現地を確認してみますと、本町岩谷の旧国道 455 号沿いに「牛追の道」と記した大きな木の標柱が設置されています。その側、旧街道登り口と旧早坂峠箇所には、以前、設置した木柱の道標らしきものはありますが、文字は消え腐れかけています。

この峠筋の旧街道跡は、小本街道として残る当時の貴重な道程ですので、道標を設置するなど誰もが歩くことができるように整えたいところです。町長の所見を伺います。

(牛追の道トレイルの整備)

次に、牛追の道トレイルの整備についてであります。

近年、全国各地で古道、旧街道、自然歩道などを使ったロングトレイルが整備され利用者も増えています。

町内には、青森・八戸から岩手、宮城を通り福島・相馬に至る「みちのく潮風トレイル」のルートが通っています。本町としてもこの縦軸の潮風トレイルに加えて、横軸のトレイルがほしいところです。

古に、沿岸北部と内陸盛岡を結ぶ重要な物流・交易の道であった「小本街道を歩く」牛追の道トレイルコースを整備し活用を図ってはどうかと考えます。

岩手県歴史の道報告「小本街道」をもとに、旧街道の分かりやすい地図と道標や一里塚、石碑等周辺文化財を紹介したパンフレットの作成や、旧街道に沿って道標、案内板等を設置し、誰でも歩けるように整備を進めるなど、広く情報を発

信してこの「旧街道を歩く」旅を楽しめることができるようにしたいものです。

旧街道は、外山早坂高原県立自然公園内にも位置します。本町と盛岡市で設立する同県立自然公園協会会長であります盛岡市長に本構想を提案してはいかがでしょうか。

“先人たちが苦勞し命がけで通った小本街道に思いを馳せ、「小本街道を歩く」道を整備する。”小本街道から新小本街道・国道 455 号の高規格化道路へと整備促進につなげていきたいものです。

牛追の道トレイルの整備について、町長の所見を伺います。

以上で、本席からの質問を終わります。

4番 畠山 和英 議員の御質問にお答えします。

初めに、1点目の、早坂高原の観光交流拠点としての整備の考え方につきましては、内外の個人客が、自然景観を鑑賞するために気軽に立ち寄れるエリアとして保全整備していく考えでありますことから、毎年度、一定の予算を確保しながら継続的な景観整備に取り組んでまいります。

次に、2点目のポスト「森林セラピーロード」の考え方と今後の取組につきましては、セラピーロード認定当初は、多くの方々の利用を促すため、ツアー企画を募集しましたが実現には至らず、その後は、森林の散策路としての活用を図っているところであり、四季折々の自然を体感でき、町民の皆様も憩える散策路として、引き続き整備、保全してまいりたいと考えております。

3点目の、今後どのようにして自然環境、景観を保ち、持続的な活用を図っていく考えかにつきましては、自然公園保護管理員を配置し、希少植物の保護や、草刈りなどをお願いしながら景観を維持保全するとともに、小規模な整理伐では収まらない森林空間整備が必要と判断した場合には、専門業

者に委託するなどして対処してまいります。

4点目のカタクリ再生大作戦の再開の御提言についてですが、これまでの取組が功を成し、現在は、大規模な刈り払いを実施しなくても、自然公園保護管理員の作業のみで群落が維持されている状況にあります。早坂高原の魅力の発信や、コミュニティの醸成にもつながる取組でもありますことから、今後、愛好者や専門家の御意見も伺いながら、検討してまいりたいと考えております。

5点目の育樹祭・植樹祭の実施についてですが、これまで、平成13年から平成19年までは植樹祭、平成20年から平成28年までを育樹祭として、計16回実施してきたところであります。

この取組により、町民の皆様にとりましても、緑化の重要性について、かなり御理解をいただいているものと認識しており、これまでも町や住民主体により、植樹などの緑化事業は相当程度実施されております。

また、県緑化推進委員会下閉伊地区協議会岩泉支部においても、植樹による環境緑化活動を行う団体に対して、桜やツツジなどの苗木を無料で配布する事業を継続して実施して

おります。

このような状況を踏まえ、早坂高原での植樹・育樹事業につきましても、今後、都市住民との交流事業などの機会を始め、実効ある実施の在り方を検討してまいります。

6点目の早坂高原公衆トイレの改修整備の見通しについては、当面、現状のトイレを修繕しながら、利用者に不便を来さないよう維持してまいります。大規模な改修、あるいは新たな整備については、高原という立地場所での用水確保の状況や将来的な施設の在り方などを踏まえながら、財源の確保も含め、今後、検討してまいりたいと考えております。

次に、多彩な“催し”の開催と宣伝、PR活動の充実強化についてであります。森林セラピー認証の団体から脱退いたしました令和3年度からは、NPOぱあとなあと岩泉・小川・小本の各地域振興協議会との共催により「早坂四季めぐり」と名打って、6月のツツジや、アヤメのシーズンには、写真で岩泉を再発見する企画、ふるさと少年隊の森で遊ぶフィールドとしての活用、本年は5月のカタクリ時期に実施しましたが、秋の自然体験を兼ねたモルック大会の開催など、早坂

高原の四季折々を満喫できるイベントの開催に努めております。

また、高原に咲く花のシーズンに入る6月には、SNSフォトコンテストを行い、小川地域振興協議会による情報発信も行われているところであります。

早坂高原の宣伝、PR活動、情報発信の取組につきましては、外山早坂高原県立自然公園協会が作成、発行しているパンフレット「フラワーロードマップ花時間」を、首都圏の観光物産展等で配布しているほか、県内観光情報誌へ広告記事を掲載するなど情報発信に努めております。

早坂高原を訪れる来訪者数は、年間5,000人を超えているものと捉えておりますが、資源の保全を前提としながら、効果的な情報発信の手段を研究してまいります。

最後に、牛追いの道トレイル整備の御提案についてですが、以前、早坂高原の峠筋をつなぐ塩の道ルートを、門小学校PTAの方々が、刈り払いや除伐をしながら、遠足行事でトレイル利用していたものと伺っております。

この塩の道ルートを本格的に整備することにつきまして

は、毎年の維持管理の対応や、利用者の安全安心の確保と、その責任の所在の明確化などが大きな課題ではありますが、塩の道ルートは歴史的な価値を有している側面もありますことから、今後、活用の可能性を調査研究してまいりたいと考えておりますので御理解をお願いいたします。

以上で答弁を終わります。